

## 【住民参加企画】

# まちのこえ ～広報広聴委員が聞く～



宮澤恵子さん

～お互いがともに支えあえる障がい者支援のために～

## 『社会福祉法人ひまわり』

障がい者の方への支援を行っている「社会福祉法人ひまわり」代表、宮澤恵子さんにお話を伺いました。

障がいを持った方の親御さんたちが、子供たちの活動の場を確保しようと立ち上がり、平成4年に小規模通所授産施設「ひまわりの家」として発足、平成18年に「NP〇幕別町手をつなぐ親の会」を設立して運営を引き継ぎ、平成24年に「社会福祉法人ひまわり」として活動が始まりました。

### ◆インタビュー

Q：「ひまわり」の障がい者支援事業は、何名の方がご利用されていますか？

A：「生活介護」、「就労支援」、「相談支援」、「地域活動支援センター」、「行動援護」、「児童発達支援」、「日中一時支援」、「移動支援」、「共同生活援助」と住む、働ける、通える場所を提供しています。現在50～60名の方が利用されています。

私たちは、利用者が個人の尊厳を保持し、心身ともに育成され、能力に応じて自立した日常生活を営むことができるように支援しています。

「ひまわり」には後援会として「ひだまり会」があり、応援・協力をしてくださって助かっています。また、地域の皆さんにも協力をさせていただけることがすごく嬉しいです。

Q：町では新たな障がい者福祉計画が策定され、様々な連携による協力体制が求められています。どのような連携体制があったらいいと思いますか？

A：就労支援事業でのことですが、電機メーカーから簡単な組み立て作業を受けていたのですが、近年仕事が減って新たな仕事を探していました。現在は農協さんの協力で仕事を紹介いただき、大変感謝しています。こうした障がい者の働き口が多方面に広がればいいなと思っています。

私たちも異業種間での連携、例えば事業者と事業者の間をつないで一つの商品を作り上げるなど、基幹産業である農業を通じて地域の為の取組ができればいいと思っています。連携には間を取り持つ人が必要だと考えており、今年6月に「小さなチャレンジの連鎖が地域を変える」と題した講演会を開催し、秋頃にも同じく地域連携についての講演会を開催しますので、皆さまぜひご参加ください。

(聞き手 荒 貴賀 寺林俊幸)

## 編集後記

ワールドカップサッカーで、日本代表が初めて南米のチームに勝利した、その大きな余韻の中、何事も初めから諦めては少しも前には進まない、との思いを強くしています。

人口が減少するから、高齢化が進行するからと、様々な理由を付けて、あるべき姿を目指すことなく、あるがままを受け入れてしまっていたのでは、未来に光明を見いだせません。

地方自治に携わる者として、常に前を向き、少しでも前に進もうとする「姿勢」を持ち続けなくてはならないと、心から痛感した日本対コロンビア戦でした。

小川純文

議会広報広聴委員会

委員長 小島智恵 副委員長 寺林俊幸  
委員 荒 貴賀 小田新紀 内山美穂子 若山和幸  
小川純文 野原恵子 谷口和弥

### 〇お知らせ

図書館で会議録の閲覧ができますので、ご利用ください。

## 議会を傍聴して

札幌みずほ町 九本 榮一

議友会の恒例行事となっている議会を今年も拝聴させていただきました。議員の皆さんは、はつらつとしており、一部他町村のように過疎化や議員のなり手不足などは感じられませんでした。理事者と議会が両輪となり、熱い思いを感じました。特に女性議員の5人の方は、毎回、全員質問に立たれ、輝く女性の範たるを感じます。今後は、一般質問は分かりやすい説明の徹底を図り、再質問は3回程度までとする。質問者一人ごとの休憩の必要性も考えていただくなど、本会議中心から各常任委員会中心として、事業評価の手法なども取り入れ、全議員で真剣に取り組んで、私たちの負託に応えていただきたいと思います。また、今後は市街地の空き家対策にも力を入れていただくよう期待いたします。

